

平和記念だより 90

2024年1月

◆編集・発行/高松市市民政策局人権啓発課 高松市平和記念館
◆連絡先/高松市松島町一丁目15番1号 たかまつミライエ5階
〒760-0068 TEL(087)833-2211 FAX(087)833-2244

平和学習(こども未来館学習)

「こども未来館学習」は、高松市の小学生(一部中学生)を対象に、たかまつミライエの各施設を活用して行う学習活動です。「平和学習」はその中の一つです。平和記念館の展示物や資料、映像等を使って「高松空襲」や「戦時下の暮らし」について学びます。「こども未来館学習」だけでなく、校外学習や総合学習でたかまつミライエを訪れ、「平和学習」を実施される小、中学校もあります。また、県内外の学校や園、団体等の皆様にも研修や見学で平和記念館をご利用いただいています。

「平和学習」には、4月から現在(12月末)までに、合わせて50校(約4,000人)の皆さんが参加しました。研修や見学では約350人の方にご利用いただきました。今回は、「平和学習」で利用していただいた、中学生の学習のまとめの一部を紹介いたします。

No. 1

Date 5 10 19

■高松空襲では、116機の爆撃機がきて、攻撃をしたことを初めて知った。いきなり大量の爆撃機がきたら、冷静にはなれないだろうと思った。また、戦時中は、学生も働いていたことが信じられない。「かつて戦争があった」ではなく、「今も世界で起きている」ということを忘れないで、平和について考えたい。

■戦争中の学校は勉強どころではなく、毎日が戦争のためにあったということが分かりました。学徒動員や勤労奉仕など、今では考えられないことをしていたと知って、今、自分が勉強できていることは幸せなことなんだなと思いました。実際に戦争を経験した人がつないでくれた78年間の平和を、私たちもつないでいかなければと思います。



No. 2

Date 5 10 19

■焼夷弾の仕組みは学校で習いましたが、原子爆弾の仕組みは初めて知りました。仕組みを知ると「考えた人、



頭良いなあ」と思うのですが、その「頭良い人」の知力が戦争のために使われたと思うとなんだかもったいない気がします。時代が違えば、環境が違えば、もっと別の使い道があったと思います。

■大人だけでなく、自分と同じくらいの年齢の子どもも労働させられていたのだと分かりました。遊ぶ暇もなく、国のために動かなければいけないというのはものすごく大変でつらいことだと思いました。戦争の恐ろしさや苦しさがよく分かったので、今の平和を大切にしてお過ごししていきたいです。

高松市戦争遺品等収蔵品巡回展「中原文化センター」



戦争遺品等収蔵品巡回展の様子

令和5年11月2日(木)、3日(金・祝)、中原文化センターで「戦争遺品等収蔵品巡回展」を開催しました。戦争遺品や戦争に関する資料や写真パネル等、計23点を展示しました。ご来場の方からは、「当時の人々が空襲や学徒動員で大変な思いをされたのが分かった。」「子どもたちが経験しなくて済むように、みんなが自分のこととして考える必要があると考えた。」といったご意見やご感想をいただきました。文化センターの文化祭開催中ということもあり、大勢の方にご来場いただきました。ありがとうございました。

館内展示の紹介②

心象展示「高松空襲と焦土の街」

高松市平和記念館では、戦時下のくらしや空襲について、実物資料やレプリカ、マジックビジョンやジオラマ等映像資料により展示・説明をしています。その中の一つが、実物大の人形とサウンドドラマによる心象展示です。今回は、「高松空襲と焦土の街」の場面で流れているサウンドドラマの音声を紹介します。ここでは、空襲後の焼け野原に立ちすくむ家族三人の様子が再現されています。二人の幼い子どもを抱え、途方に暮れる母親が、心細い気持ちを吐露します。

登場人物

高松妙子(母親) かつひこ(長男) たかお(二男)

ウォーン、ウォーン

— 鳴り響く警報の音 —

ゴォーン、ゴォーン

— 爆撃機が上空を通過する音 —

妙子独白 「ズーンと響いてくるよ

うなその音は、防空壕が崩れるのではないかと思うほど恐ろしい音でした。」

ヒューン、ヒューン、ドカン、ドカン

— 爆弾が投下され着弾する音 —

ゴォー、ゴォー、メラメラ、メラメラ

— あたり一面燃え盛る音 —

妙子独白 「高松はどこかも燃えました。焼け出さ

れた私たちは、目の前に広がるがれきの街の前に立ち尽くしました。たった一晩でこんなにも変わってしまった姿になるなんて、悪い夢を見ているようでした。」

ガヤガヤ、ザワザワ、キャー

— 人々のざわめく声 —

妙子独白 「これから一体どうすればよいのか。子ども

もたちの手をしっかりと握りしめて、私はいつまでも焼け野原にぼう然と立ちすくんでいました。」



7月3日は千代田生命前に家族が集合し、地下の防空壕に入ったが、ここでは危ないということですぐに出て、家族ばらばらになりながら西浜の塩田方面に逃げた。敵機(B29)がいっぱい飛んできた。町の方は赤くなっていた。空襲が終わり、夜が明けて、家の焼け跡を見に行った。西浜に戻り、最後まで帰ってこなかった母親と弟を待っていたが、二人が線路を歩いて帰ってきたときは抱き合って喜んだ。7月5日、歩いて出晴駅まで行き、そのあとトラックで疎開先の富田に向かった。着いたとたんに関東の召集令状が届いた。父は、疎開先で一泊もすることなく善通寺に赴いた。

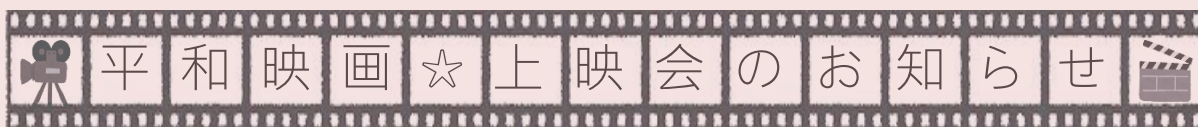
証言者プロフィール

- 当時 女学校1年生
- 住所 寿町
- 家族 10人

父母

子ども8人
- 家業 料亭

「あの日わたしは 高松空襲～当時を伝える証言者の声～」(高松空襲を子どもたちに伝える会)証言映像より編集



平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

1月の上映 「かんからさんしん」(78分)

日時▶ 開館日の土・日・祝、午後2時上映開始

解説▶ 太平洋戦争末期、避難していたガマ(洞窟)の中で、手りゅう弾を手に死を覚悟する人々。それを思いとどませたのは、ガマの外から聞こえてくる島唄の懐かしい音色であった。「生きる」ことの意味をサンシンにのせて唄う人々と、沖縄戦の悲惨さを描いた長編アニメーション。



2月の上映 「小さい潜水艦に恋をしたでかすぎるクジラの話 (野坂昭如戦争童話集)」(45分)

日時▶ 開館日の土・日・祝、午後1時上映開始

解説▶ クジラのクー助が日本軍の潜水艦をクジラだと思い込み恋をした。潜水艦に乗っているのは、かつてクー助に助けられた少年。クー助は恋する潜水艦を駆逐艦の攻撃から守ろうとする。野坂昭如さん原作の戦争アニメーション。



3月の上映 消えさらぬ傷あと「火の海・大阪」(20分)

日時▶ 開館日の土・日・祝、午後1時上映開始

解説▶ 家族に囲まれ、幸せな毎日を送るサチコ。しかし、サチコには決して忘れることのできない思い出があった。それは、大阪の街を襲い、大勢の尊い命を奪った空襲。幼い妹が亡くなり、自らも大けがを負った。戦争体験者の声と実話をもとに、戦争の恐ろしさを描いた短編アニメーション。



※ 都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

寄贈者の父親の遺品。父親は1917(大正6)年生まれ。1941(昭和16)年、加古川飛行隊 13 戦隊に応召後、大連に向かう。以後、航空通信兵として中国大陸各地を転属。その間、1941 (昭和 16)年 9 月～1945 年(昭和 20)年 1 月に、戦地から家族に送った軍事郵便がほとんどで、未使用の 53 枚を含め、合計 307 枚ある。復員後に、父親が連番を振り整理した。

軍事郵便とはいえ、絵葉書に描かれた絵画は著名な画家によるものもあり、芸術性が高い。文面も、時候の挨拶や家族への気遣い、そして、自らの心境や心情が、こまやかに表現豊かにつづられており、父親の人柄がしのばれるものである。



平和記念館「企画展示コーナー」に展示中

軍事郵便

【読み】ぐんじゅうびん

【分類】戦時中の通信

戦時下では、兵士が家族等との郵便のやりとりをする場合、**検閲**(内容に軍にとって不都合な点がないかどうかを調べ、不都合な点があった場合は消却するか、書き直し)が行われた。

検閲の便宜上、軍事郵便のやりとりにははがきが使用された。戦地では中隊付将校の印鑑が捺されるのが原則。軍務が長期化すると、一般兵士には軍事郵便はがきが月に 2、3 枚官給品として支給された。軍事郵便には消印(扱った郵便局の日付印)が捺されていない。また、1 銭 5 厘(1937 年 4 月からは 2 銭)の切手は不要であった。

(高松市平和記念館展示キャプションより)

編集メモ

11 月に中原文化センターで開催した「戦争遺品等収蔵品巡回展」には、大勢の家族連れの皆さんにご来場いただきました。そのような中で、小学生のお子さんが、家族に「高松空襲の状況」や「焼夷弾のしくみ」について説明している場面を何度か見かけました。「こども未来館学習(平和学習)で勉強したんや。」と、少し得意げです。平和記念館で実施している平和学習の成果を垣間見るようでうれしく思いました。



たかまつミライエ

高松市平和記念館 (たかまつミライエ 5 階)

開館時間：午前 9 時～午後 5 時 (入館は午後 4 時 30 分まで)

休館日：火曜日 (祝日の場合は翌日)、年末年始12/29～1/3

入館料：無料

▼ホームページアドレス (平和啓発の推進事業がご覧いただけます) ▲QR コード

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html>

